

新品種紹介

リンゴ

果皮が黄色で大果の美味しい 「もりのかがやき」

我が国では、果皮が赤いリンゴ品種の栽培が多く、黄色のリンゴ品種の栽培は少ないのが現状です。一方で、生産者の間では、葉摘みや玉回しなどの着色管理が不要な黄色品種への関心が高まっています。現在、黄色品種として早生の「きおう」、中晩生の「シナノゴールド」



「もりのかがやき」の結実状況

や「王林」が市場に流通していますが、その間をつなぐ中生品種が不足しています。そこで、外観や食味が優れる黄色の中生品種を育成しました。

岩手県盛岡市における開花期は

5月中旬で、「ふじ」とほぼ同じです。収穫期は10月中下旬で、「ふじ」より約3週間早く収穫できます。また、安定して結実し、豊産性です。



「もりのかがやき」の果実

果実重は370 g程度と大きく、果形は円形です。果皮は黄色で陽光面の赤い着色は少なく、果面のさびの発生も少ないため、無袋栽培でも果実の外観はきれいです。

果肉は黄白色で、歯ざわりが良く、多汁で、糖度は15%程度と高く酸味は少なく、芳香があり、食味が優れているリンゴです。

北海道、東北から北信越にかけてのリンゴ栽培地域で栽培できます。

ウメ

梅酒・梅ジュースなど加工に適した 「翠香（すいこう）」

ウメ果実の用途は主として、梅干し加工を目的として加工業者に販売される漬け梅用、家庭での梅酒・梅ジュース加工を目的として市場流通する青梅用、そして酒造会社や飲料会社で使用する梅酒等飲料用の3つがあります。国内のウメ出荷量のうち、全体の約40%が梅酒等飲料の加工原料として利用されており、ウメの主要な消費形態となっています。近年、梅酒需要の高まりとともに、



「翠香」の結実状況

青梅を用いた梅酒だけでなく完熟果を利用した梅酒の製造など、味を意識したこだわりのある製品が増加しています。そこで、梅酒や梅ジュースなど飲料製造に適した品種の育成を

育成しました。

茨城県つくば市における開花期は3月上旬で、「南高」とほぼ同じで、「白加賀」より約



「翠香」の果実

5日早くなります。収穫期は6月下旬で、「南高」より3日程度早く、「白加賀」とほぼ同じです。

果実重は35 g前後ですが、核（種子）が小さく果肉が多いです。果形は楕円形で、果皮色は淡緑色です。果肉色は、成熟に伴って淡緑色から黄色に変化し、完熟果は黄橙色となります。酸含量は収穫盛期で5.9%程度です。

「翠香」を用いた梅酒・梅ジュース製品には独特の芳香があります。特に完熟果を使用すると、酸味が多く香りが強い上質の梅酒・梅ジュースになります。

東北から九州までのウメ栽培地域で栽培できます。

ここで紹介した新品種の苗木は、今年の秋以降、社団法人 日本果樹種苗協会（略称：果種協）を通じて全国の種苗会社から販売開始になります。